

第14回国際家畜繁殖学会での研究成果発表及び 中家畜の繁殖シンポジウム出席並びに当分野の学术交流

福 井 豊

畜産管理学科家畜育種増殖学講座教授

1. 目 的

スウェーデン、ストックホルム市で開催された第14回国際家畜繁殖学会での研究発表（ポスター）、ノルウェー、サンドネス市で開かれた“ヒツジ・ヤギの繁殖”に関するシンポジウム、ならびにデンマーク王立獣医・農業大学のトーベン・グリーブ（Torben Greve）博士の研究室を訪問し、最近の家畜繁殖学の進展状況の把握と学术交流を目的に研修した。

2. 期 間

平成12年(2000年)6月27日(火)～平成12年(2000年)7月11日(火)：15日間

3. 場 所

1) 第14回国際家畜繁殖学会

スウェーデン、ストックホルム市郊外の国際交流会場（写真1）で開催（7月2日～7月6日）

2) 中家畜（ヒツジ・ヤギ）繁殖シンポジウム

ノルウェー、サンドネス市内のノルウェー獣医学校（Norwegian School of Veterinary Science：写真2）、小反芻家畜研究部（Department of Small Ruminant Research）で開催（6月30日～7月1日）



写真1. 第14回国際家畜繁殖学会会場
（スウェーデン、ストックホルム市）



写真2. 中家畜（羊・山羊）繁殖シンポジウム
が開催されたノルウェー獣医学校



写真3. デンマーク王立獣医・農業大学の繁殖学分野の主任教授, Torben Greve 博士 (大学内の庭園)



写真4. 14の島と運河からなる美しいストックホルム市 (スウェーデン)

3) デンマークでの学術交流

デンマーク王立獣医・農業大学, 繁殖分野の主任教授である Torben Greve 博士 (写真3) の研究室

4. 内 容

1) 4年毎に開催される国際家畜繁殖学会 (International Congress of Animal Reproduction: ICAR) は, スウェーデン, ストックホルム市で催された。ストックホルムは島と運河からなる美しい港湾都市である (写真4)。7月12日(日)正午より, 市内のシエルトン・ホテルで受付が行われた。ICARは, 家畜および, 野生動物も含めた繁殖学分野を研究している世界中の学者, 農・畜産団体, 民間会社, 牧場関係者が集まる一大イベントで, 今回も56カ国から741人が参加していた。7月3日(月)~7月6日(木)の各午前中に2-3人の発表者による基調講演が行われた。第1日目には, クローン羊 (ドーリー) を誕生させた Ian Wilmut 博士が「New Opportunities in Animal Breeding and Production」として最近の家畜におけるクローン技術の進展と展望について述べた後で, デンマークの Peter Sandoe 博士が, 「Bioethics: Limits of the Interferences with Life」として生命倫理の面から反論を呈した。その他, 繁殖生理 (「主席卵胞の生理的選抜」など) に関する基調講演が第2日目に, 第3日目には「Life Quality of the Offspring」や「Semen Sexing: the Current Technology」などの最近の研究傾向について, そして第4日目は, 「Embryo-Pathogen Interaction and Early Embryonic Death」(ベルギー, A. de kruif 教授) など病原因子や環境汚染と生殖機能との関連性について発表があった。この他, シンポジウム (12課題) が7月3, 4, 5日の3日間, 午後 (1日4課題同時進行) に行われた。各シンポジウムの課題は, 「ウシの繁殖」, 「馬の繁殖」, 「ブタの繁殖」, 「犬・ネコの繁殖」など品種別, および「繁殖分野における分子生物学」, 「配偶子の生命」, 「受精と胚発生における新概念」, など項目別にも別れており, 各シンポジウム全てに参加するのは不可能であるので事前に予約していたシンポジウムに参加した。

さらに、“ワークショップ”として17題が2日に別けて(7月3日(月)の午後5時-7時までと7月6日(木)の午前11時-午後1時まで)行われた。これも同時進行であるため、筆者は事前に予約していた「Reproduction in Small Ruminants」, 「The In vitro Produced Calf」そして「Oocyte Maturation and Activation」の“ワークショップ”に参加した。基調講演やシンポジウムに比べて、参加者が分散するため50人以内の和やかな雰囲気が進められていたのがよかった。

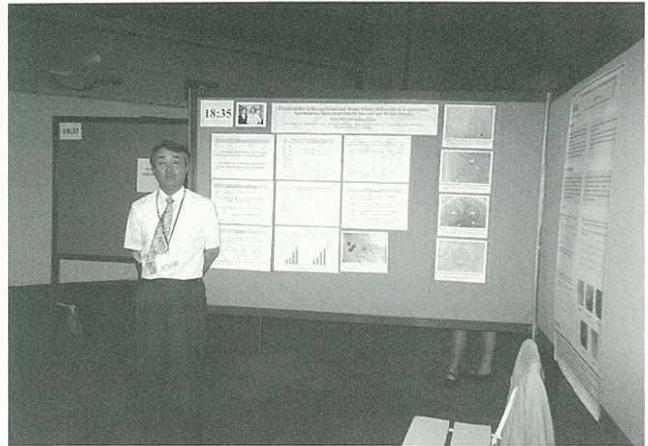


写真5. ポスターで研究成果を発表した筆者

筆者の研究成果(ポスター発表の総数は519題で、日本からの発表数は42題で、ブラジル、スウェーデンについて3番目に多かった。)は7月3日にはポスターを提示し、7月5日(木)10:45-12:30までポスターの前に立ち、質問者に対応した(写真5)。発表題目は「Fertilizability of ram, bull or minke whale (*Balaenoptera acutorostrata*) spermatozoa intracytoplasmically injected into bovine oocytes」で主席発表者は当研究室在籍の中国からの留学生(岩手連大3年目)、Hong WEI君との共同研究である。体外成熟させたウシ卵子にウシ、ヒツジまたはミンククジラの精子を一匹、顕微授精法で注入し、精子頭部の変化、前核形成、分割の有無を見たもので、すでに国際雑誌“Zygote”に受理されていたので、そのコピーを参加者、質問者に配布した。

2) 中家畜(羊, 山羊)繁殖シンポジウム

人口5.1万人の小さな町、Sandnesにあるノルウェー獣医学校で開催された当シンポジウムは、羊, 山羊の研究者が55人集まり、「Reproduction Control Methods」, 「Stress and Reproduction in Small Ruminants」, 「Embryos Transfer and AI Technology」, 「Cloning of Small Ruminants」, 「Transgenic Technology」などについて2日間(6月30日の夜は市長主催の歓迎レセプション、羊の丸焼きBBQなどで夜遅くまで旧友、新友と語り合った)羊の繁殖について考えた。

3) デンマークの学術交流

Torben Greve教授とは7年前から国際受精卵移植学会などで面識はあったが、「ウシ胚の体外生産に関する研究」では世界的にリードされており、ぜひゆっくり研究室などを訪問して語り合いたかった。7月11日(月):9am-2pmの帰国用飛行機の出発前まで、デンマーク王国獣医・農業大学内の施設、研究室の見学、そして上記の共通研究分野についてお互いの研究成果、課題について議論できたことは今回の研修の中でも最良の時であった。

終わりに、今回帯広畜産大学後援会のご支援を頂き4年ぶりに海外研修でき、学会出席、学術交流を通じて、自分自身を見つめ直す機会と時間を与えて下さった方々に厚く御礼申し上げます。